

アルコール依存症回復の道筋を知ろう



「オレは病気ではない!」と言い張り、いつでもお酒をやめられると思っている人が増えています。2013年厚生労働省研究班調査では、茨城県民とほぼ同数の【293万人＝アルコール依存症と予備群】と報告されています。

依存症治療の分野で、**アルコールは合法ドラッグと言われ、依存症は飲酒をコントロールできなくなる脳の病気です。「やめたいという強い意思をもってしても、やめられない脳の病気」なのです。**

病気でないと思っている人に、回復の道筋に乗せるためには、コツがあります。今回はアルコール専門医療機関として長年地域に貢献している豊後荘病院のアルコール・リハビリテーション・プログラム(ARP)から、回復援助のコツを学びます。



日時：平成28年5月28日(土)

13時30分～16時00分

**場所：茨城県精神保健福祉センター
3階セミナー室**

(水戸市笠原町993-2) 水戸保健所隣



13:30 開会

【アルコール依存症治療における茨城方式】

豊後荘病院 精神保健福祉士 小口 克行先生

「病気ではない」との否認に対して、治療の動機づけを実践しているスペシャリスト。豊後荘病院でのアルコール学習会なども担当されている。当センターのアルコール依存症家族教室にもご協力をいただき、地域から医療へつなげる活動もされている。



16:00 閉会



【お申込み 及び お問い合わせ先】

茨城県精神保健福祉センター相談援助課

TEL 029-243-2870

FAX 029-244-6555



※会場案内図 =

【申し込み締め切り】

平成28年5月19日(木)



送信票 【アルコール依存症治療における茨城方式】

所属	職種	ご氏名	連絡先

